

## 教員研究業績一覧（2017年4月1日～2018年3月31日）及び前年度補遺

神鷹 徳治（日本文学）

### 【論文】

1. 「原刊本と校定本」(『図書の譜』第21号, pp. 153-154, 明治大学図書館紀要, 2017年3月10日)〈補遺〉
- 

山崎 健司（日本古代文学）

### 【著書】

1. (共著) 村里好俊・山崎健司・半藤英明・五島慶一・馬場良二・山田俊・砂野幸稔・坂井隆編『女性・ことば・表現—ジェンダー論の地平』大阪教育図書, 全276頁(山崎 pp1-30), 2017年9月)

### 【論文】

1. 「うら悲しき景—大伴家持の春愁歌の表現をめぐって—」(『國語と國文学』第94巻第4号(通巻1121号, pp. 1-15, 明治書院, 2017年3月12日)〈補遺〉)

### 【学内外における社会的活動等】

1. 明治大学教育職員免許更新講習会 講師(国語科古典担当)
  2. 明治大学付属明治高等学校高大連携講座講師
  3. 萬葉学会 編輯委員
  4. 萬葉学会 奨励賞選考委員
  5. 萬葉学会 全国大会実行委員
  6. 上代文学会 常任理事(編集委員長)
  7. 筑波大学日本語日本文学会 評議員
  8. 筑波大学学位論文審査委員会委員
  9. 和漢比較文学会 会計監査
- 

牧野 淳司（日本文学）

### 【著書】

1. 「笑いと涙の中世寺院—仏教説話を生み出す場」(『ともに読む古典 中世文学編』, 笠間書院, pp. 91-101, 2017年3月)〈補遺〉
2. 「国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』翻刻と解題」(『国立歴史民俗博物館研究報告』, 国立歴史民俗博物館, pp. 147-341, 2017年3月)〈補遺〉

### 【学会発表・研究発表】

1. 「唱導資料から見る堂舎建立と造仏の営み」(説話文学学会大会, 名古屋大学, 2017年6月24日)
  2. 「僧侶による説経の隆盛と平家物語の誕生」(研究集会「The Take of Heike and other warrior tales:a a Japanese epic?」, パリ・ディドロ大学, 2017年10月19, 20日)
  3. 「源氏物語注釈の諸相」(国際学術研究会<交響する古代VIII—古代文化資源の国際化とその意義 Vol. 3—>, 明治大学, 2017年12月1日)
- 

石川 日出志（考古学）

### 【著書】

1. (共著) 東日本特別委員会編『日本考古学協会東日本大震災対策特別委員会報告書』般社団法人日本考古学協会, 全233頁, (「第3章特別委員会の活動(1)被災直後の実情調査」pp. 14-15, 「(3)被災自治体への実情調査 2. 岩手県南部」pp. 21-24, 「第8章震災に関する研究・普及活動(2)学術会議」担当), 2017年3月〈補遺〉
2. (共著) 『科学研究費補助金・基盤研究(B): 研究成果報告書 気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究 課題番号: 26284100 研究期間: 平成26(2014)年度~平成28(2016)年度 研究代表者: 石川日出志(明治大学文学部教授)』, 明治大学, 全236頁, 「摘要」(pp. 1-2)・「第1部 研究概要」(pp. 4-9), 2017年3月〈補遺〉

### 【論文】

1. 「東日本弥生文化の変革」(『やちくりけん』, pp. 20-26, やちくりけん, 2017年5月)
2. 「宮ノ台式土器の成立と弥生時代研究」(『平成29年度企画展 横浜に稲作がやってきた!?!』, pp. 90-95, 横浜市歴史博物館, 2017年7月)
3. 「『漢委奴國王』金印の複眼的研究」『第五届“孤山証印”西泠印社国際印学峰会』下冊, 西泠印社出版社, 和文 pp. 1554 - 1565・中文 pp. 1566 - 1577, 2017年10月)
3. 「歴史学における弥生文化論の位置」(『季刊考古学』, pp. 67-70, 雄山閣出版, 2017年2月)〈補遺〉
4. 「Post-WWII Japanese Archaeology and the Founding of the Japanese Archaeological Association in 1948」『JAPANESE JOURNAL of ARCHAEOLOGY』Vol. 4 No. 2, pp. 165-170, 2017年3月)〈補遺〉

【学会発表・研究発表】

1. 「漢委奴國王」金印の複眼的研究」(第5回西冷印社印学峰会“弧山証印”, 中国杭州・天元大厦), 2017年10月30日)
2. 「東アジアの中の日本・弥生時代文化」(明治大学・南京大学研究交流行事, 南京大大学院, 2017年11月2日)
3. 「日本考古学界の組織化と共同研究」(公開シンポジウム<戦後日本考古学と杉原荘介, 明治大学日本古代学研究所, 2017年11月11日)
4. 「漢委奴國王」金印研究の到達点」<東北アジア考古学研究会月例会, 東京大学法文学部1号館3階316教室, 2017年11月15日)
5. 「漢委奴國王」金印の考古学」(駒澤大学大学院史学会第45回大会, 駒澤大学1号館402教室, 2017年11月25日)
6. 「杉原荘介と中韓考古学交流」(国際学術研究会〈交響する古代Ⅷ-古代文化資源の国際化とその意義 Vol.3〉, 明治大学, 2017年11月30日)

【学内外における社会的活動等】

1. 一般社団法人日本考古学協会理事(副会長)
2. 考古学研究会常任委員
3. 文部科学省文化審議会専門委員文化財分科会第三専門調査会委員
4. 文化庁埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会委員
5. 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員 委員
6. 東京都板橋区文化財保護審議会委員(副会長)
7. 東京都北区文化財保護審議会委員(副会長)
8. 茨城県文化財保護審議会委員
9. 佐賀県吉野ヶ里遺跡弥生時代調査指導委員会委員
10. 福島県白河市天王山遺跡調査指導委員会委員(委員長)
11. 茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会委員
12. 茨城県大洗町史跡調査検討委員会委員
13. 市川市史編纂委員会(歴史部会)委員
14. 調布市史跡下布田遺跡調査評価委員会委員
15. 新潟市史跡古津八幡山遺跡保存活用計画策定委員会委員
16. 新潟県見附市史跡耳取遺跡保存活用計画策定委員会委員(委員長)
17. 長野県木島平村平塚遺跡発掘調査指導委員会委員

-----  
佐々木 憲一(考古学)

【著書】

1. (編著)『霞ヶ浦の前方後円墳』(明治大学文学部考古学研究室, 佐々木 pp.1-6, 7-10, 36-37, 38-41, 58, 86-89, 90-94, 100-103, 109-111, 122-124, 130, 249-258, 2018年2月28日)

【論文】

1. “Kofun Era and the State Formation in Japan.” (*Routledge Handbook of Premodern Japanese History*, edited by Karl Friday, pp. 68-81, Routledge, London. 2017年7月)

【学会発表・研究発表】

1. 「State Formation in Japan: A View from Eastern Periphery」(Asian Archaeology Seminar, アメリカ合衆国ハーヴァード大学. 2017年6月22日)
2. 「Distributing the “Standard” of Mound Construction to Local Elites as an Example of Inalienable Wealth」(第2回 European Association for East Asian Art and Archaeology, スイス連邦チューリッヒ大学, 2017年8月25日)
3. 「Periodization in Japanese Archaeology: Case of the Yayoi-Kofun transition」(European Association for Japanese Studies, ポルトガル・リスボン, 2017年9月1日)
4. 「Center and Periphery in the Early State Formation in Japan」(Roundtable Discussion: Archaeology and the Early Japanese State, プリンストン大学考古美術史学科・東アジア学科共催, 2017年10月12日)
5. 「State Formation in Japan: A View from Eastern Periphery」(Brown Bag Lunch Lecture Series, ミシガン大学人類学博物館, 2017年11月9日)
6. 「杉原荘介と北アメリカの考古学者との交流」(国際学術研究会〈交響する古代Ⅷ-古代文化資源の国際化とその意義 Vol.3〉, 明治大学, 2017年11月30日)
7. 「古墳時代における文字の利用」(中央大学大学院学術シンポジウム「文化の始まりを探る—土器の始まり・文字の始まり」, 2017年12月16日)
8. 「State Formation in Japan: A View from Eastern Periphery」(単独講演, ドイツ連邦共和国チュービンゲン)

大学, 2017年1月11日)

9. 「State Formation in Japan: A View from Periphery」(単独講演, イギリス連合王国ケンブリッジ大学, 2017年1月16日)
10. 「Archaeological Excavations at the Okkoshi-Tokazuka Mounded Tomb, Ibaraki Prefecture」(明治大学・南カリフォルニア大学学術交流, 南カリフォルニア大学, 2017年2月15日)

【学内外における社会的活動等】

1. 奈良市財団法人寧楽美術館評議員 (2004年～)
2. 長野市史跡大室古墳群整備専門家会議メンバー (2007年～)
3. 茨城県ひたちなか市文化財保護審議委員 (2007年～)

---

湯浅 幸代 (日本文学)

【著書】

1. 『源氏物語の史的意識と方法』(新典社, 2018年1月)

【論文】

1. 「『源氏物語』の注釈書はなぜ思想書となったか」(松田浩ほか編『古典文学の常識を疑う』, 勉誠出版, pp. 100-103, 2017年5月)
2. 「江戸中期の源氏物語注釈書・土肥経平『花鳥芳囀』について—明治大学日本古代学研究所所蔵本の紹介とその位置づけから—」(原岡文子・河添房江編『源氏物語煌めくことばの世界II』, 翰林書房, pp. 595-614, 2018年3月刊行予定)

【学会発表・研究発表】

1. 「江戸中期における源氏物語注釈書・土肥経平『花鳥芳囀』について」(国際学術研究会〈交響する古代VIII—古代文化資源の国際化とその意義Vol.3〉, 明治大学, 2017年12月1日)
2. 「『源氏物語』にみえる「心の鬼」考」(明治大学日本古代学研究所研究集会「文芸テキストから探る古代社会の“こころ”」, 明治大学, 2018年3月11日)

【学内外における社会的活動等】

1. 日本文学協会委員

---

若狭 徹(考古学)

【著書】

1. 『前方後円墳と東国社会』(吉川弘文館, 2017年1月)〈補遺〉

【論文】

1. 「上毛野(西毛)」(『積石塚大全』, 雄山閣, pp41-66, 2017年6月)
2. 「古代上毛野の馬生産—保渡田古墳群を中心として」(『海を渡ってきた馬文化』, 群馬県立歴史博物館, pp162-167, 2017年10月)
3. 「埴輪からわかること」(『歴史地理教育』875, 歴史教育者協議会, pp. 4-9, 2018年2月)

【学会発表・研究発表】

1. 「現代に象徴される古墳—地域資産としての整備活用」(2017年度駿台史学会総会, 明治大学, 2017年12月2日)

【学外講演】

1. 「古墳の史跡整備と保存活用」(第3回若狭歴史環境講座講演会, 若狭歴史文化館, 2017年8月26日)
2. 「東国前方後円墳の実像」(明治大学博物館友の会講演会「日本考古学2017」, 明治大学アカデミーホール, 2017年9月24日)
3. 「古墳時代豪族の地域経営と馬生産の導入—上毛野を例に」(群馬県立歴史博物館企画展関連講演会, 群馬県立歴史博物館, 2017年10月8日)
4. 「はにわの世界」(福島県立文化センターまほろん文化財研修考古学専門研修, 福島県立文化センターまほろん, 2017年10月28日)

【学内外における社会的活動等】

1. 特別史跡多胡碑保存検討委員 (2018年1月～)
2. 上毛新聞・第26期オピニオン委員 (2017年11月～)
3. 史跡埼玉古墳群保存整備協議会委員 (2017年8月～)
4. 国立歴史民俗博物館企画展示「世界の中の古墳文化」プロジェクト委員会委員 (2016年4月～)
5. 史跡埼玉古墳群保存活用計画検討委員 (2017年8月～)
6. 高崎市文化財調査委員会委員 (2018年3月～)
7. 国立歴史民俗博物館共同研究員 (2015年4月～)
8. 国立歴史民俗博物館総合展示室第1室リニューアル委員会委員 (2017年4月～)

【新聞・TVでの研究成果報道】

1. 「前方後円墳と東国社会」(コメンテーター・取材協力, 産経新聞朝刊文化面西日本版, 2017年6月)
2. 「考古学ドローンが変える?」(コメンテーター・取材協力, 朝日新聞朝刊文化面, 2017年7月)
3. 人名探求バラエティー「日本人のおなまえっ」(出演・取材協力, NHK番組「日本人のおなまえっ」, 2017年7月)
4. 「上野三碑高い文化示すー「世界の記憶」登録へ高まる期待」(取材協力・寄稿, 朝日新聞朝刊群馬版, 2017年9月)
5. 「上野三碑「世界の記憶」に 古代人の心 直接表現」(寄稿, 東京新聞朝刊群馬版, 2017年11月)
6. 「群馬の名のルーツ 古代の馬生産先駆け」(寄稿, 上毛新聞朝刊オピニオン欄, 2017年11月)
7. 「歴博再オープンを喜ぶー交歓の場・拡大に期待」(寄稿, 上毛新聞朝刊オピニオン欄, 2017年12月)

---

中村 友一 (日本古代史)

【著書】

1. (共著) 篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編『国造制・部民制の研究』八木書店, (中村「伴造—伴部制の一齣—垂仁紀を中心にして—」pp89-109, 2017年10月)

【論文】

1. 「忌部首子首と天武・持統代の出雲」(『出雲古代史研究』27号, 出雲古代史研究会, pp1-11, 2017年7月)
2. 「国家成立期の氏族・部と系譜」(『歴史評論』809号, 歴史科学協議会, pp61-70, 2017年9月)
3. コラム「自治体史の利用とこれからの望むこと」(『日本歴史』836号, 日本歴史学会, pp99-102, 2018年1月)
4. 「耳別氏と古代豪族論」(『美浜町歴史シンポジウム記録集 12 耳別氏、若狭に起つ』, 福井県美浜町教育委員会・歴史文化館, 頁数未定, 2018年3月刊行予定)

【学会発表・研究発表】

1. 「平安右京と右京貫氏族の存在形態」(単独)(あたらしい古代史の会, 東京女子大学, 2017年11月)
2. 「日本古代の「連公」考」(単独)(明治大学・高麗大学校国際学会議『韓日の文学・史学研究の現在』, 明治大学, 2017年11月)

【学内外における社会的活動等】

1. 埼玉県杉戸町文化財保護審議委員
2. 立川市史編纂委員 (古代中世部会)
3. 成城大学民俗学研究所研究事業「日本古代の氏と系譜」研究協力者
4. 研究費基盤研究(A)「日本墨書土器データベースの全国的達成」(研究代表者: 吉村武彦) 究分担者

---

加藤 友康 (日本古代史)

【学会発表・研究発表】

1. 「東アジアの中の平安文化」(明治大学・南京大学研究交流行事, 南京大大学院, 2017年11月2日)
2. 「私立大学戦力的研究基盤形成支援事業(新大型研究)における統合型検索システムの開発と文化資源化」(国際学術研究会(交響する古代Ⅷ- 古代文化資源の国際化とその意義 Vol. 3-), 明治大学, 2017年12月1日)

【学外講演】

1. 「律令制と房総三国」(『千葉県史講座』古代(1), 千葉県, 千葉県生涯大学校, 2017年8月23日)
2. 「撰問時代の房総の受領」(『千葉県史講座』古代(2), 千葉県, 千葉県生涯大学校, 2017年8月23日)

【コラム】

1. 「古代法と「国例」」(『概説 日本法制史』, 弘文堂, pp. 111-114, 2018年3月刊行予定)

【学内外における社会的活動等】

1. 文部科学省文化審議会専門委員 (文化財分科会)
  2. 国立歴史民俗博物館運営委員会共同研究委員会委員
  3. 国立歴史民俗博物館運営委員会共同研究委員会委員
-